

防犯への使命感

株式会社アボアエンジニアリング 代表取締役
防犯設備士 第05-13182号

津田 栄次



1995年大学卒業後、東京の映像・音響・防犯カメラやセンサーを扱う会社に入社し、様々なメーカー・システムに触れてきました。当時は特に記録（証拠）が残っていればいい・・的な流れがあり、同じテープに繰り返し長時間録画をされているケースも多くありました。メーカー間の仕様競争が、長時間記録や長距離伝送に傾いたときに、なんとなく違和感を感じながらも販売していた様な気がします。思えば、カメラの解像度が高くなつても、それを表示できる経済的なモニターが無い時代でした。

防犯カメラは撮影範囲を狭めることで個人の特定が容易になる反面、画角外の記録が撮れなくなります。センサーについても誤報との闘いで、なかなか完璧なシステム構築が難しいものです。訓練や動作確認として考えによっては有益ですが、「安心」をお届けしたい私としては心苦しい面がありました。「防犯」の付加価値を模索した時期もありました。

10年前に、父が経営している会社の手助けができるればと思い、防犯・映像・音響設備を手掛けていた広島のアボアエンジニアリングに転職しました。プロとして仕事をする以上は単なる取付工事業者ではダメ。付加価値の低い商品は単価が下がり、付加価値のある商品と組み合わせることで、お客様の目的通り、かつリーズナブルな提案ができる点が、仕事として取り組む面での楽しさの一つといえます。社員一丸となり仕事に楽しみと、きちんとした志を持ち、下記の様な考え方をベースに提案するようにしています。

- ・そこで生活している人間の「防犯意識を高める事は、様々な設備よりも一番有益
- ・防犯設備とは時間的・空間的・精神的な人間の隙間を補うモノ
- ・自分（敷地・財産）だけが安全であればよいのか？と聞かれると、ほとんどの人間はNOと答えるハズ
- ・幼少期の躾「悪いことしたら誰かが見とるんじゃけ、悪さしたらいけんよ！」
- ・地域全体の防犯意識が高まるこそが、生活環境の防犯意識の向上であり、安心・安全につながる
- ・防犯設備士の資格を持つ人間が提案する仕事は、お客様の安心にもつながる

これらを踏まえ弊社では、【地域防犯プロジェクト】として「自分だけの警戒線だけでなく、その周囲への防犯協力できる設備」こそ、顧客の深層ニーズであると使命感を持って提案しています。

「防犯」は犯罪を防ぐ目的でありながら、防犯カメラは記録を撮ることが仕事です。もちろん犯罪者に対しての威嚇目的もあります。設備投資をする側から考えたとき、この防犯設備の費用対効果は、明確にすることが難しい。そこで我社は、業務改善につながる防犯設備で地域防犯に貢献する、一石三鳥のご提案をしております。センサーヤシステムも、防犯だけの目的に使うのはもったいない。発想を工夫すれば単なるコストでなくなります。

活躍する防犯設備士

防犯設備士を目指したきっかけは、防犯カメラやセンサーだけでなくセキュリティ知識を身につけ、「資格」として認定されるのであれば、自分自身の自信にもつながる事と、お客様からも安心して頂けるのではないかと考えました。

ところが実際に取得してみると知名度の無さにビックリ（失礼！）してしまいました。

縁あって、数年前から広島県生活安全防犯協会（以後、広防協）に所属した時にも、会員としてのメリットはなに？防犯設備士持っていても意味あるの？と悲観的になっていました。悲観的になりつつも、我社の防犯設備士は今年2名増える予定ですし、私自身も総合防犯設備士にチャレンジします。日本防犯設備協会との相互会員となった事がきっかけなのかもしれません、まずは自分から！ボランティ

ア精神を持ち、広防協を盛り上げることが、広島県、最終的には日本全体の生活安全活動につながるハズ！の信念で参加させて頂いています。幸いにも広防協には歴戦の先輩方がおられるため、勉強させていただいている。私も20年後は後輩の前で恥ずかしくない知識と使命感を持っていつづけたいと思います。

3月の初旬、福岡県と山口県の防犯設備士協会を訪ねました。特に福岡では、安心・安全なまちづくりに対する福岡県警の熱い話を聞くことができ、とても刺激を受けました。私共でも、もっともっと安心安全なまちづくりに対してお役立ちができると思います。今年は広島県生活安全防犯協会の活動を通じ、広島県でも他県に遅れを取らない取り組みをしていきたいと思います。



福岡県防犯設備士協会訪問時